

+Professional



学校法人 **北海道科学大学**

(旧学校法人北海道尚志学園)

2014 学校法人のご案内

+Professional

+Professional

理事長のメッセージ	2
進化のはじまり	3
ブランドの統一	4
キャンパスの再整備	5
沿革	7
法人の組織	9
法人役員等、認証評価	10
北海道科学大学	11
北海道科学大学短期大学部	15
北海道薬科大学	17
北海道尚志学園高等学校	21
北海道自動車学校	23
各校の学生・生徒、教職員データ	25
各校の所在地、連絡先	26

Message

理事長のメッセージ

100年へ向けて、 その先の100年へ向けて。

本法人のルーツは、今から90年前の大正13年に開設された自動車運転技能教授所に遡ることができます。以来順次、北海道自動車学校の開設、我が国初の自動車工学に関する高等教育機関として北海道自動車短期大学、北海道工業高等学校（現：北海道尚志学園高等学校）、道内初の私立工科系単科大学として北海道工業大学並びに薬学教育を担う北海道薬科大学を開学し、昭和50年には学校法人北海道尚志学園と名称を改めました。そして法人創立90周年を迎える本年4月、設置校の北海道工業大学並びに北海道自動車短期大学を「北海道科学大学」「北海道科学大学短期大学部」に改称するのを機に、法人イメージをより明確にするため、学校法人名称を「学校法人 北海道科学大学」に変更し、新たなスタートを切りました。

本法人は来る平成36年に法人創立100周年を迎えるに当たって、ブランドビジョンである「**基盤能力と専門性を併せ持つ人材を育成し、地域と共に発展・成長する北海道No.1の実学系総合大学を実現します。**」という大きな目標を掲げ、全設置校共通のローガンを「**+Professional**」（プラスプロフェッショナル）とし、豊かな人間性、探求心と創造力にあふれる人材を育成することを目指しています。

また、平成22年から約2年にわたり検討を重ね、平成24年5月の理事会において承認された「**教学体制の再構築並びにキャンパス再整備計画**」に基づき、北海道科学大学の学部を改組改編するとともに、看護学科、理学療法学科、診療放射線学科を新たに加えた保健医療学部を開設。北海道薬科大学では桂岡キャンパスの狭小さと校舎の耐震性を考慮し、さらに将来の大学統合を見据えて、平成27年4月の前田キャンパスへの移転に向けて新校舎の建設が進んでいるところであります。また、北海道科学大学短期大学部についても前田キャンパスへの移転が決定しています。今後も北海道尚志学園高等学校の附属化、北海道科学大学と北海道薬科大学の統合など、実学系総合大学の実現に向けて確実に計画を進めていきます。

このように、法人が設置する高校・短期大学部・大学・大学院がキャンパスの集約を機に学びのネットワークでさらに緊密に結ばれ、高校や短期大学部から系列大学への進学を促進することにより、工学・医療・薬学系の一貫教育の体制をさらに強化します。そして、日本の将来を担う若者達を教育するという社会的責務を果たすために、これからの社会の要請に応えることができる新たな教育環境と研究施設の整備・充実を図り、永続性のある法人運営基盤の確立に今後も努めてまいります。



学校法人 北海道科学大学
理事長 西 安信

- 1940年 北海道小樽市生まれ
- 1962年 北海道大学工学部卒業
- 1967年 北海道大学大学院工学研究科衛生工学専攻 博士課程修了 工学博士 北海道大学助手(工学部)
- 1968年 米国エール大学ピアス研究所客員研究員
- 1976年 同研究所 客員准教授を経て北海道工業大学助教授(建築工学科)就任
- 1978年 教授昇格、その後入試部長・主任教授等を歴任
- 2006年 北海道工業大学学長・北海道尚志学園理事就任
- 2009年 北海道尚志学園理事長就任・北海道工業大学学長兼務
- 2011年 北海道尚志学園理事長

※北海道尚志学園および北海道工業大学は平成26年4月より名称変更されています。

100周年ブランドビジョンと、 私たちの信条(Our Spirits)。

100周年ブランドビジョン

**基盤能力と専門性を併せ持つ人材を育成し、
地域と共に発展・成長する北海道No.1の実学系総合大学を実現します。**

「基盤能力」とは社会の一員として活躍するための基盤となる能力です。
社会的なマナー、コミュニケーション、共感と協働、そういった社会人としての基盤を成す能力のことです。

私たちの信条 (Our Spirits)

地域共育力

「地域と共に成長する力」

向上心を持つ学生・教職員・地域社会が、
共にイキイキと学び合う場を提供し、共に成長する力を示します。

「地域と共に育てる力」

地域の人材を預かり、教職員・地域社会が一丸となって、
厳しくも愛情を持って地域の発展に貢献する
人材を育成する力を示します。

北海道において本法人が果たすべき役割を明確にするために、そして10年後の2024年へ向けた歩みを確かなものにするために、100周年ブランドビジョンを設定しました。先人たちが積み重ねてきた歴史を基に、現在の社会環境を把握し、地域社会の発展と成長のために能動的に貢献することを定めた指針です。



法人の進化を紹介：
将来構想特設サイト



私たちの シンボルマークとスローガン



+Professional

私たちの信条で語られた「地域共育力」を表すのが、Progress「H」と名付けられた新しいシンボルマークです。北海道という我々が根ざし貢献すべき土地を表す「H」の文字と、学生、地域、教員、職員を表すリボンが一つに交わり(育み)、大きく広がっていく(成長していく)、地域共育力を象徴しています。鮮やかなオレンジ色は私たちの教育にかける熱い想いを表しています。そして、私たちの信条で語られた「+Professional」をシンボルマークと共にスローガンとして掲げます。

学校法人 **北海道科学大学**

 **北海道科学大学**

 **北海道科学大学短期大学部**

 **北海道薬科大学**

 **北海道薬科大学附属薬局**

 **北海道尚志学園高等学校**

 **北海道自動車学校**

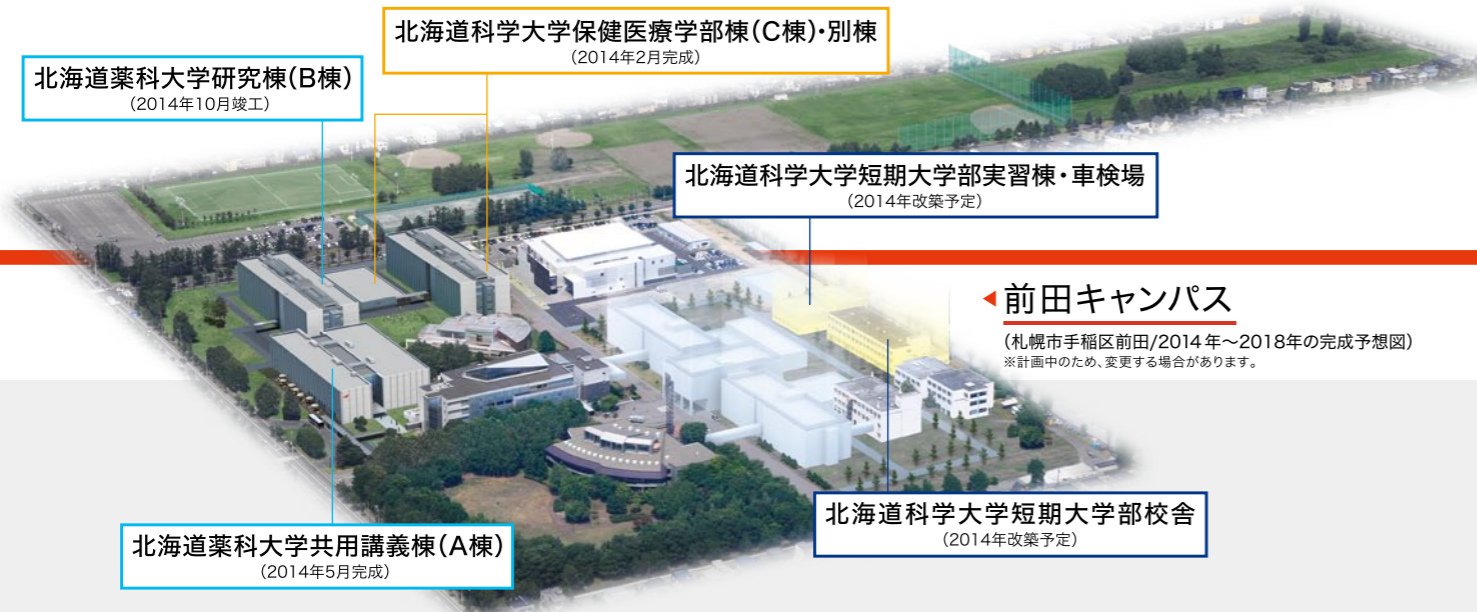
2014年から、北海道工業大学は「北海道科学大学」に、北海道自動車短期大学は「北海道科学大学短期大学部」に、学校法人北海道尚志学園は「学校法人北海道科学大学」に変わります。北海道No.1の実学系総合大学を目指す私たちの新しい決意です。

キャンパスの再整備

北海道唯一の
実学系総合大学キャンパス

2014年4月の北海道科学大学の保健医療学部3学科設置に併せて、前田キャンパスに新校舎を建設。さらに2015年4月の北海道薬科大学の移転に備え、新校舎を2棟建設中。設計にあたり、「高度専門領域の研究」と「地域共育力」を促進すること、そして機能性と情報共有に配慮した幅広い視野と柔軟な発想力を育む環境の整備を重視しました。学内外の交流拠点となる場を配置し、地域連携のコミュニティを創出することも計画しています。

知の探求に落ち着いて浸ることができる木々に囲まれた図書館、2012年に竣工した太陽光パネルで発電する先進的な体育館など、頭と心と身体を成長させる豊かなキャンパスライフを提供しています。さらに、2018年を目標に、キャンパス全体の再構築を計画。幅広い実践的な学問領域の融合、そして産・官・学の連携を促進する、新時代の実学系総合大学のキャンパスが誕生します。進化し続けるダイナミックな教育環境が学生の向学心を高めます。



桂岡キャンパス(小樽市桂岡町)
◎北海道薬科大学



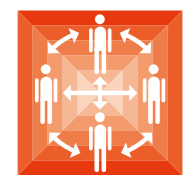
(2015年、前田キャンパスへ移転予定)

中の島キャンパス(札幌市豊平区中の島)
◎北海道科学大学短期大学部 ◎北海道尚志学園高等学校 ◎北海道自動車学校



(2015年、前田キャンパスへ移転予定)

◎北海道薬科大学
サテライトキャンパス(札幌市中央区)



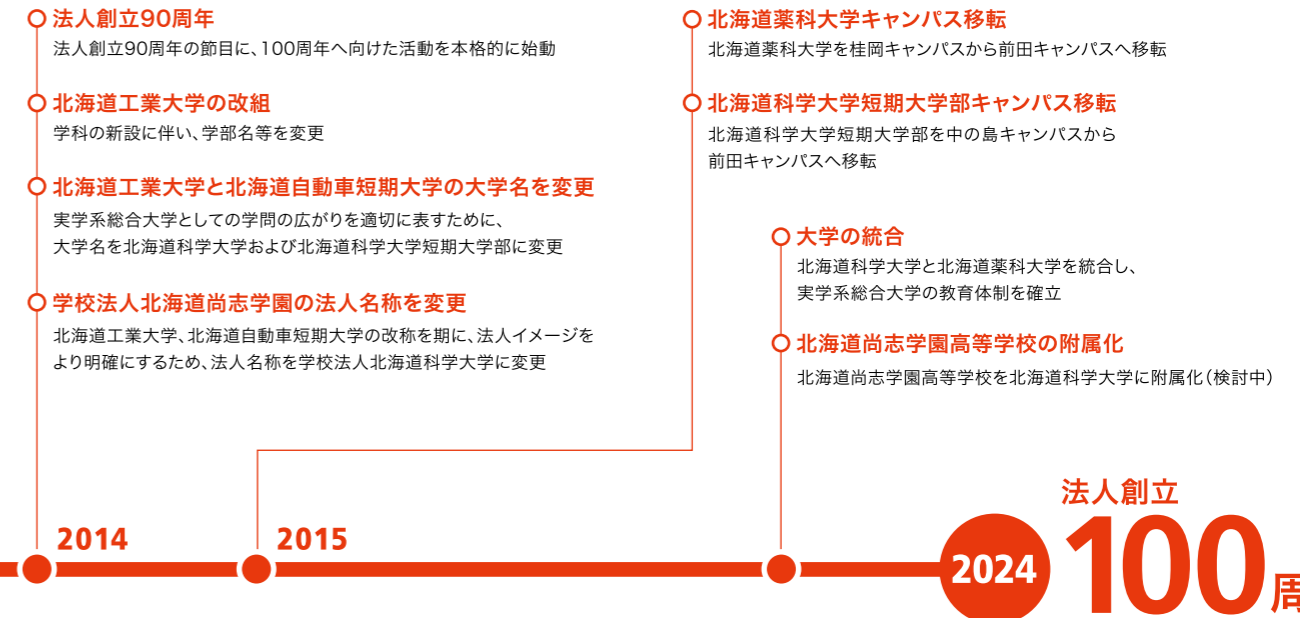
知的発見と成長を導くダイナミックな環境の創造

「高度専門領域の研究」と「地域共育力」を促進するキャンパス。

機能性と情報共有に配慮し、幅広い視野と柔軟な発想力を育む環境を設計しました。学内外の交流拠点となる場を計画的に配置し、地域連携のコミュニティを創出します。

2015年4月には北海道薬科大学と北海道科学大学短期大学部が前田キャンパス(札幌市手稲区)に移転予定。実学系総合大学としてさらに進化します。

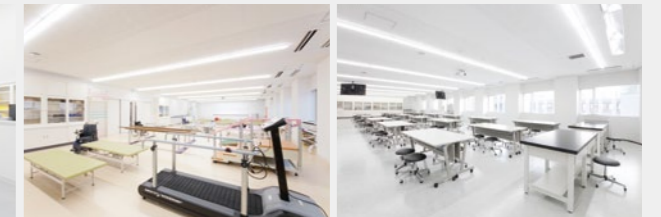
2024年、100周年へのロードマップ

北海道科学大学
保健医療学部棟(C棟)・別棟

保健医療学部棟外観(北側)



1階/CT室



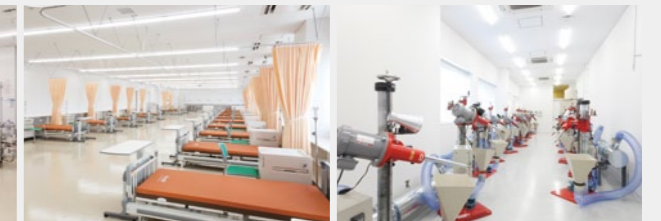
2階/運動療法室



3階/臨床工学工学系実験室



4階/臨床工学第一実習室



5階/基礎看護学実習室



別棟/機械室

北海道薬科大学共用講義棟(A棟)

地上4階建ての建物で1階には学生食堂、コンビニエンスストア、書店、ATM、保健管理室などのほか、学生生活をサポートする学務系の事務局を配置。2階・3階には北薬大と北科大の講義室が大小合わせて20室配置され、講義棟の2階と研究棟の2階は通路で連結し、相互に行き来することが可能です。4階には、総務・管理系の事務局と法人本部が配置されています。



北海道薬科大学共用講義棟(南側)

北海道薬科大学研究棟(B棟)

地上5階建ての建物に、先進的な学びの場を完備。実験動物室、中央機器室、模擬薬局実習室、シミュレーター演習室、TDM室、無菌注射剤調整室などを配置した実験・実習エリアと、図書室、薬学教育センター学習室、多目的研究室をはじめ、1～5階の各フロアに配置された大小のセミナー室・学習室を中心とする研究・学習エリアからなっています。



北海道薬科大学研究棟(南側)

※計画のため、変更する場合があります。

沿革
HISTORY

1924



北海道協立自動車学校の校舎と車庫

1931



当時の教習風景

1956



北海道工業高等学校開校

1970



北海道工業大学
切削機構に関する実験風景

1975



北海道薬科大学実習風景

1996



北海道自動車短期大学
World Solar Challenge
参戦・完走

1924

大正13年 8月 ●伏木田隆作、自動車運転技能教授所設立 ※当法人の創設

1936

昭和11年 6月 ●各種学校に組織変更認可

1951

昭和26年 5月 ●財団法人北海道自動車学校設立認可
昭和26年10月 ●準学校法人北海道自動車学校認可

1953

昭和28年 1月 ●学校法人自動車学園に組織変更認可
設置校/北海道自動車短期大学 北海道自動車学校
昭和28年 4月 ●北海道自動車短期大学開学 学科/自動車工業科

1956

昭和31年 4月 ●北海道工業高等学校開校 課程/定時制 学科/自動車科

1957

昭和32年 4月 ●北海道工業高等学校通常課程設置 課程/全日制 学科/自動車科 工業経営科

1963

昭和38年 4月 ●北海道自動車短期大学学科設置 学科/自動車工業科(第二部)

1967

昭和42年 4月 ●北海道工業大学開学 学部/工学部 学科/機械工学科 経営工学科

1968

昭和43年 4月 ●北海道工業大学学科設置 学部/工学部 学科/電気工学科

1972

昭和47年 4月 ●北海道工業大学学科設置 学部/工学部 学科/土木工学科 建築工学科

1973

昭和48年 4月 ●北海道工業高等学校学科設置 学科/普通科

1974

昭和49年 5月 ●北海道薬科大学開学 学部/薬学部 学科/薬学科 生物薬学科

1975

昭和50年 4月 ●法人名称変更 学校法人自動車学園を学校法人北海道尚志学園へ

1978

昭和53年 4月 ●北海道薬科大学大学院設置 研究科/薬学研究科
専攻/生物薬学専攻 課程/修士課程

1980

昭和55年 4月 ●北海道薬科大学大学院課程設置 研究科/薬学研究科
専攻/生物薬学専攻 課程/博士課程(後期)

1985

昭和60年 4月 ●北海道電波専門学校設置者変更(昭和30年開校、昭和53年専修学校認可)

1986

昭和61年 4月 ●北海道工業大学学科設置 学部/工学部 学科/応用電子工学科

1987

昭和62年 4月 ●学校名称変更 北海道電波専門学校を北海道総合電子専門学校へ

1990

平成2年 4月 ●北海道工業大学大学院設置 研究科/工学研究科
専攻/電気工学専攻 応用電子工学専攻 建築工学専攻 課程/修士課程

1992

平成4年 4月 ●北海道工業大学大学院専攻および課程設置 研究科/工学研究科 専攻および課程
機械システム工学専攻/修士課程 土木工学専攻/修士課程
電気工学専攻/博士課程(後期) 応用電子工学専攻/博士課程(後期)

1994

平成6年 4月 ●北海道工業大学大学院専攻および課程設置 研究科/工学研究科 専攻および課程
機械システム工学専攻/博士課程(後期) 建設工学専攻/博士課程

2000

平成12年 4月 ●北海道薬科大学大学院専攻設置 研究科/薬学研究科 専攻/臨床薬学専攻 課程/修士課程

2001

平成13年 4月 ●学校名称変更 北海道工業高等学校を北海道尚志学園高等学校へ
●北海道工業大学設置学科改組 工学部/電気電子工学科 情報ネットワーク工学科 情報デザイン学科
福祉生体工学科 環境デザイン学科 機械システム工学科 社会基盤工学科 建築学科

2003

平成15年 4月 ●北海道自動車短期大学専攻科設置 自動車工学専攻 車体工学専攻

2004

平成16年 4月 ●北海道薬科大学学科設置 学科/医療薬学科(既存2学科を再編)

2006

平成18年 4月 ●北海道薬科大学学科設置 学科/薬学科(6年制)

2008

平成20年 4月 ●北海道工業大学学部学科再編
創生工学部/機械システム工学科 情報フロンティア工学科 電気デジタルシステム工学科
空間創造学部/建築学科 都市環境学科
医療工学部/医療福祉工学科
未来デザイン学部/メディアデザイン学科 人間社会学科

2010

平成22年 4月 ●北海道薬科大学大学院専攻設置 研究科/薬学研究科 専攻/薬科学専攻 課程/修士課程

2012

平成24年 4月 ●北海道工業大学大学院専攻設置 研究科/工学研究科
専攻/電気電子工学専攻 情報工学専攻 医療工学専攻 課程/修士課程
●北海道工業大学学科設置 学部/医療工学部 学科/義肢装具学科
●北海道薬科大学大学院専攻設置 研究科/薬学研究科 専攻/臨床薬学専攻 課程/博士課程
●北海道薬科大学附属薬局開設

2014

平成26年 4月 ●学校法人名称変更 学校法人北海道尚志学園を学校法人北海道科学大学へ
●学校名称変更 北海道工業大学を北海道科学大学へ
北海道自動車短期大学を北海道科学大学短期大学部へ
●北海道科学大学学部学科改組
工学部/機械工学科 情報工学科 電気電子工学科 建築学科 都市環境学科
保健医療学部/看護学科 理学療法学科 義肢装具学科 臨床工学科 診療放射線学科
未来デザイン学部/メディアデザイン学科 人間社会学科

2001



北海道工業大学講義棟
(G棟)落成

2002



全日本高等学校選抜
ソフトテニス大会優勝

2008



北海道工業大学
医療工学部 設置

2012



北海道薬科大学附属薬局 開設

2014



北海道科学大学
保健医療学部棟・別棟落成



ヒューマニティと テクノロジーの融合を理念に、 創造性豊かな技術者を育成

北海道科学大学は、1967年に北海道工業大学として、人材の育成を通じて産業界の発展と地域社会の活性化に寄与することを目的に創立され、2014年4月、医療系3学科を新設し、大学名称を変更しました。

本学は、ヒューマニティとテクノロジーの融合を教育理念の中心に据えており、創立当初は機械工学科、経営工学科の2学科からスタートし、工学に関する基礎知識の習得はもちろん、より高度な専門学術を研究するとともに、応用力を養うことで、創造性豊かな技術者、研究者を多数輩出してきました。さらに近年は文理融合型の教育を推進し、工学を基本としながらも医療分野も含め、学びの幅を拡充。時代のニーズに応える、3学部12学科を有する大学へと進化を遂げています。

また、広く社会に視野を向け、高度な科学技術を追及し、人と環境に調和した数々の研究成果も発表しています。

IT導入や 新体育館の建設など、 充実した教育環境を整備

北海道科学大学は開放的なロケーションのなかに建ち、学生たちは四季の変化を感じながら、のびのびとしたキャンパスライフを過ごしています。恵まれているのは自然環境だけではありません。本学では教育環境の充実にも力を入れており、キャンパス全体にITを導入するなど、「モバイルキャンパス構想」を推進しています。具体的には、講義室の机に情報コンセントを設置し、学生・教員の双方向による対話型授業を展開しています。また、学内の各所に情報コンセントや無線LANのアクセスポイントを設置するとともに、履修登録や出席管理、課題提出等をノートパソコンから行うための学内システムを構築しています。

一方、心身ともに健全な人材の育成に取り組む本学では、体育館を2012年2月に建設しました。そのコンセプトは「アトリウム広場」。これは部室棟、トレーニ

ング・ミーティング棟、サブアリーナと3つの建物に囲まれるようにメインアリーナを配置したもので、体育館はスポーツ系クラブの学生はもちろん、文化系クラブやクラブ活動に参加していない学生も気軽に利用できる施設を目指し、椅子やミーティングテーブルを置いた一般開放ゾーンや、スニーカーのまま運動ができるスポーツ広場などを設けることで、全ての学生、教職員が自由に利用できる施設として機能していくことを理想としています。

未来を開拓する支援事業と、 高度な専門研究を深める 大学院

本学では、優秀な学生を社会に送り出すため、さまざまな支援事業を展開しています。学生一人ひとりの将来を真剣に見つめ、有意義なキャンパスライフを過ごせるようにバックアップするとともに、希望の就職実現に向けて学生を支援する「学生サポートプログラム」(キャリア支援事業)も積極的に展開しています。優秀なOB・OGの活躍もあり、本学は社会から厚い信頼を得ており、これによって高い就職率をキープしています。就職という進路がある一方で、本学では、より高度で専門的な研究を行う大学院を設置。修士課程、博士後期課程を擁する大学院工学研究科を設け、探究心旺盛な技術者、研究者、大学教員を養成しています。大学院生はそれぞれの研究テーマに取り組み、数々の学会や研究会において活発に発表を行うなど、これまで多くの実績を挙げています。北海道屈指の教育機関として、本学大学院はますますその存在意義と価値を高めていく方針です。



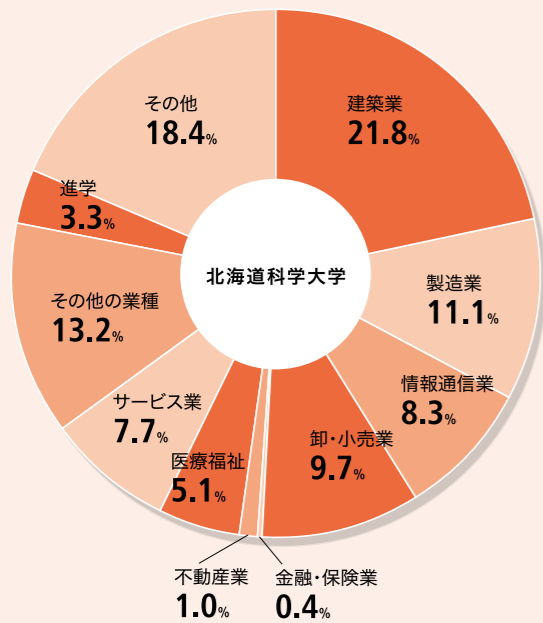
産・官・学の連携を深め、地域社会の発展に貢献

工科大学として創立された本学は、本年4月より医療系分野を充実させ、高度な教育・研究機関にふさわしく、産学連携を社会的使命として捉えており、地域のシンクタンクとしての役割を担っています。公的機関や民間企業から委託を受け、本学教員が研究を行う受託研究契約を締結。培った寒地技術や先端技術を産業界にフィードバックすることによって、産・官・学の交流を深めると同時に、多大なる社会貢

献を果たしています。2012年4月には、積雪寒冷地における、よりよい環境づくりと持続可能なエネルギーシステム構築に資する技術の開発に寄与することを目的に「寒地環境エネルギーシステム研究所」を開設。また、昨年4月には、お年寄りや障がいのある人々が寒冷地においても豊かな生活が実現できるよう、人、医療、機械、情報技術を融合・複合して研究する「寒地ヒューマンサポートシステム研究所」を開設しました。今後も本学は、高度技術をリードするエンジニア教育を展開し、地域社会の発展に貢献していきます。



就職進学実績 (過去3年間)



卒業生の主な就職先

かんぽ生命保険、JFEスチール東日本製鉄所、東日本旅客鉄道、積水ハウス、北海道電力、大成建設、大和ハウス工業、清水建設、北洋銀行、ヤマダ電機、東京地下鉄、大林組、レオパレス21、光通信、竹中工務店、三和シャッター工業、明治、苫小牧信用金庫、トランスコスモス、大東建託、きんでん、ミサワホーム、西松建設、戸田建設、奥村組、ドン・キホーテ、THK、前田道路、日立システムズ、コメリ、岡村製作所、鉄建建設、新明和工業、NIPPO、文化シャッター、東芝三菱電機産業システム、トーモク、NECネットエスアイ、NTTファシリティーズ、日本道路、東芝プラントシステム、大成ロテック、佐川急便、ホームック、アズビル、JSP、NECフィールディング、川田工業、日本デジタル研究所、北海道旅客鉄道、アインファーマシーズ、アルファシステムズ、日本電設工業、浅沼組、三機工業、東亜道路工業、日本光電工業、協和エクシオ、松屋フーズ、フジッコ、日立アロカメディカル、レッドバロン、大林道路、日本飛行機、日特建設、日比谷総合設備、新日本空調、三菱電機ビルテクノサービス、澤村義肢製作所、川村義肢、洛北義肢、鈴木義肢装具、エヌ・オー・ティー、海上保安庁、東京消防庁、北海道職員、北海道警察、釧路市役所、北見市役所、札幌市役所、青森市役所、むつ市役所、江別市役所、深川市役所、恵庭市役所、岩内町役場、仁木町役場、日高町役場、音威子府村役場、独立行政法人国立病院機構大阪医療センター、留萌市立病院、市立函館病院、市立室蘭総合病院、青森県立中央病院、八戸市立市民病院、千葉県循環器病センター

HISTORY

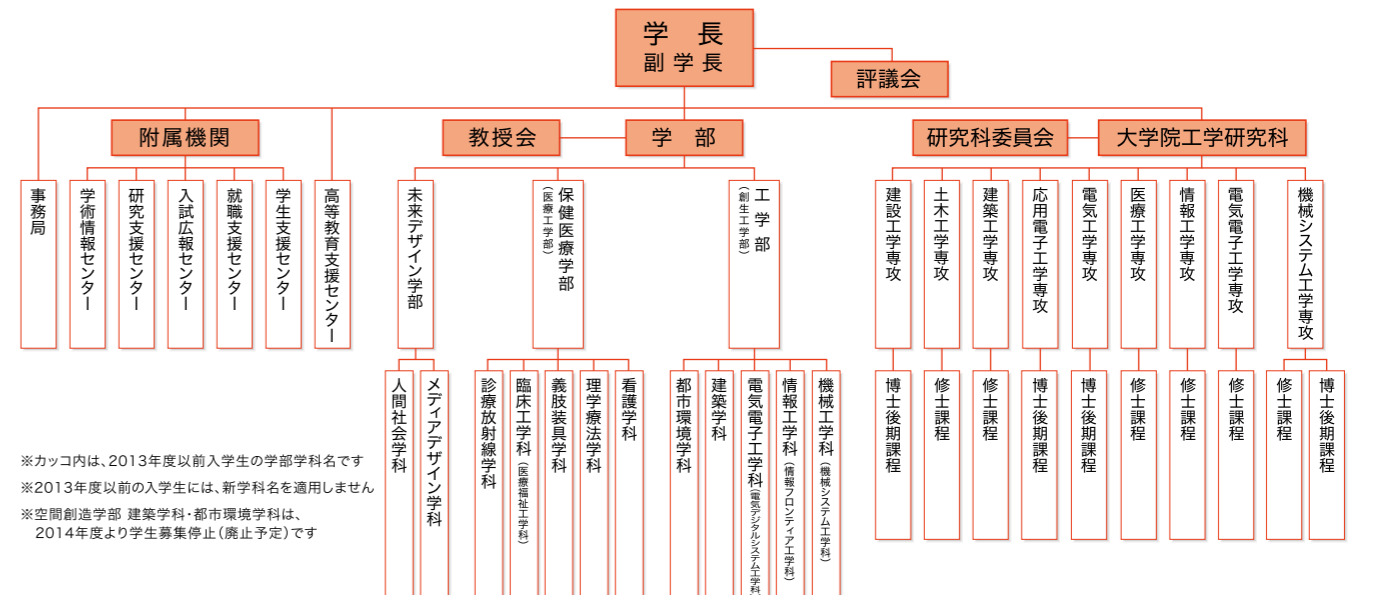
- 1967** 昭和42.4 ●開学 ●工学部
 - 機械工学科設置
 - 経営工学科設置
- 1968** 昭和43.4 ●工学部
- 1972** 昭和47.4 ●工学部
 - 電気工学科設置
 - 土木工学科設置
 - 建築工学科設置
- 1978** 昭和53.4 ●計算機センター開設
- 1980** 昭和55.4 ●寒地総合技術センター開設
- 1986** 昭和61.4 ●工学部 ●図書棟竣工 ●大学院/工学研究科(修士課程)
 - 電気工学専攻設置
 - 応用電子工学専攻設置
 - 建築工学専攻設置
- 1990** 平成2.4 ●大学院/工学研究科(修士課程)
 - 機械システム工学専攻設置
 - 土木工学専攻設置
- 1992** 平成4.4 ●大学院/工学研究科(修士課程)
 - 機械システム工学専攻設置
 - 土木工学専攻設置
- 1994** 平成4.9 平成6.4 ●芦原ニセコ山荘竣工 ●大学院/工学研究科(博士後期課程)
 - 機械システム工学専攻設置
 - 建設工学専攻設置
- 1995** 平成7.4 ●HITプラザオープン
- 2001** 平成13.4 平成13.7 ●計算機センターを情報技術センターに改称 ●既設6学科を3系列・8学科に改組・再編 ●講義棟(G棟)竣工
- 2008** 平成20.4 ●工学部8学科を4学部8学科に改組・再編
- 2009** 平成21.4 ●情報技術センターを運営組織改編により付属機関に再編
- 2012** 平成24.2 平成24.4 ●体育館竣工 ●医療工学部 ●義肢装具学科設置 ●大学院/工学研究科(修士課程)
 - 電気電子工学専攻設置
 - 情報工学専攻設置
 - 医療工学専攻設置
- 2013** 平成25.4 ●寒地環境エネルギーシステム研究所開設
- 2014** 平成26.2 平成26.4 ●寒地ヒューマンサポートシステム研究所開設 ●保健医療学部棟(C棟)および別棟(R1棟)竣工 ●大学名称を北海道工業大学より変更 ●3学部12学科へ改組・再編

■大学院研究科・学部学科構成 (2014年度)

■大学院(入学定員45人)		入学定員	
工学研究科	博士後期課程	機械システム工学専攻	2
		電気工学専攻	2
		応用電子工学専攻	2
		建設工学専攻	2
	修士課程	機械システム工学専攻	7
		電気電子工学専攻	6
		情報工学専攻	6
		医療工学専攻	6
		建築工学専攻	6
		土木工学専攻	6

■学部学科(入学定員812人)		入学定員
工学部	機械工学科	92
	情報工学科	90
	電気電子工学科	80
	建築学科	80
保健医療学部	都市環境学科	50
	看護学科	80
	理学療法学科	40
	義肢装具学科	50
	臨床工学科	70
未来デザイン学部	診療放射線学科	50
	メディアデザイン学科	80
人間社会学科	50	

■組織 (2014年5月1日現在)



※カッコ内は、2013年度以前入学生の学部学科名です
 ※2013年度以前の入学生には、新学科名を適用しません
 ※空間創造学部 建築学科・都市環境学科は、2014年度より学生募集停止(廃止予定)です

**60年の信頼と実績を基盤として
北海道科学大学短期大学部
へ進化**

北海道科学大学短期大学部は、国内で自動車の製造が開始された4年後の1953年(昭和28年)に、我が国初の自動車工学専門の教育機関である北海道自動車短期大学として開学しました。自動車工学に特化した専門教育と社会人基礎力の醸成に欠かせない一般教養科目のバランスのとれた教育内容で高い評価を得ているとともに“JITAN”の呼び名で親しまれてきました。2013年4月には開学60年目を迎え、社会に送り出した卒業生の数も2万7000人を超えるまでになっています。

その信頼と実績を基盤として新時代の人材育成を実現するため、北海道科学大学短期大学部として進化します。実践・実利・実証に基づく「実学主義」という理想、「実学＝サイエンス(科学)」であるという理念のもと

に、工学分野をはじめとした幅広い学びとリンクを図り、次代の自動車業界が求める、より多様な知識・技術を身につけた人材を育成します。また、北海道科学大学をはじめとする4年制大学への編入学など、これまで以上に将来の選択肢が広がる学びの場へと生まれ変わります。

**多様な職種の即戦力を育てる
新カリキュラムを導入、
系列大学への編入学を強化**

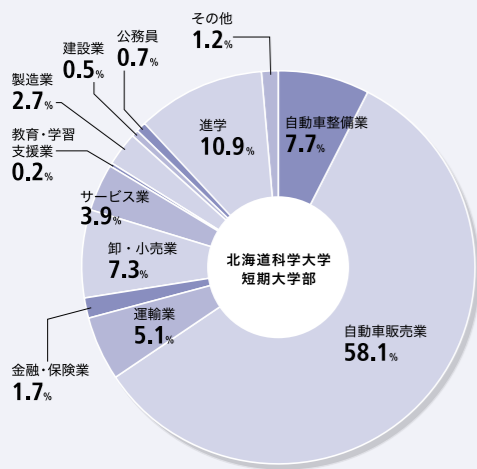
さまざまな職種が存在する自動車業界へ、全方位的に有能な即戦力の人材を送り出すために、2014年度から新カリキュラムを導入しました。まず、北海道科学大学と基本教育科目を共通化し、一般教養から社会人基礎力までを高いレベルで身につけることを可能としました。

また、目標を明確にして学べる4つのコース、自動車整備コース、技術開発コース、損

害保険コース、マネジメントコースを新設しました。自動車整備コースでは自動車工学の基礎からハイブリッド車など最先端技術を駆使した整備技術までを学び、ハイレベルの自動車整備士を目指します。技術開発コースでは製造業界への就職や北海道科学大学工学部機械工学科への編入学を見据えた学びを実施します。損害保険コースでは損害保険技術アジャスターや本学の専攻科車体工学専攻への進学を見据えた学びを実施します。マネジメントコースではビジネス系専門科目の修得によって自動車業界の営業・販売・経営者を目指すと共に、北海道科学大学未来デザイン学部人間社会学科への編入学も見据えた学びを実施します。

これらの取り組みによって、整備業界だけではなく、製造業界、損害保険業界、運輸業、公務員、ならびに自動車関連販売業界など、本人の適性と希望にあわせた高い就職実績と、北海道科学大学への編入学による学びの連携を更に盤石なものとし

就職進学実績(過去3年間)



卒業生の主な就職先

日本除雪機製作所、DRD、古河機械金属、日産自動車、FLEX、SGモーターズ、UDトラックス北海道、ダイハツ北海道販売、トヨタカローラ札幌、トヨタカローラ函館、トヨタカローラ北見、トヨタカローラ名古屋、ネットトヨタ旭川、ネットトヨタ札幌、ネットトヨタ帯広、ネットトヨタ道都、ホンダカーズ小樽、ホンダカーズ南北海道、旭川トヨタ自動車、旭川日産自動車、イーグルジャパン、イデアル、スズキ自販関東、スズキ自販北海道、ホンダカーズ札幌中央、ホンダカーズ千歳、ホンダカーズ南札幌、ホンダ四輪販売北海道、モーターズ札幌、ヤマセ、丸金金田自動車、釧路トヨタ自動車、釧路三菱自動車販売、国際興業、札幌トヨタ自動車、札幌トヨペット、札幌日産自動車、椎内三菱自動車販売、東北北海道いすゞ自動車、東北北海道日野自動車、日産プリンス札幌販売、北海自動車工業、北海道いすゞ自動車、北海道スバル、北海道マツダ販売、北海道三菱自動車販売、北海道日野自動車、北見トヨペット、北見三菱自動車販売、北見日産自動車、エム・エス・ケー農業機械、オートプランニング、カークリーニングショップBEEP、カードックス&P、カーライフシステム、ホクレン油機サービス、HASジャパン、クレタ、協栄車輛、広川自動車工業、佐藤自動車工業、滝川自工、林自工、向田自動車、札幌チーゼル、三菱自動車工業、日通機工、A-ONE、リバーランドサービス、菊池自工、サンコー・エア・セルテック、暁交通、千歳空港モーターサービス、北海道中央バス、あいおいニッセイ同和損害調査、損害保険ジャパン、全労済自動車共済全国事業本部、東京海上日動火災保険(中国)有限公司、東京海上日動調査サービス、エスケーリース、札幌地方自動車整備振興会、旭川地方自動車整備振興会、アクティオ、タツノ、ワーカム北海道、日本自動車機械工具協会、西尾レントオール、北日本重機、消費安全技術センター札幌センター、自衛隊札幌地方協力本部、谷井産業、北海道エネルギー

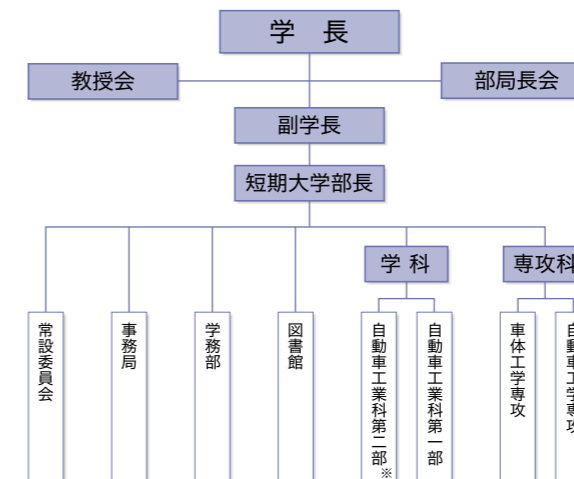
HISTORY

- 1953 昭和28.4 ●開学
■自動車工業科設置
- 1957 昭和32.9 ●同窓会(丁酉会)設立
- 1963 昭和38.4 ■自動車工業科二部設置
- 1968 昭和43.9 ●体育館(尚志館)竣工
- 1977 昭和52.9 ●技術研究館(3号館)竣工
- 1979 昭和54.4 ●自動車工業科を自動車工業科第一部に改称
●自動車工業科二部を自動車工業科第二部に改称
- 1985 昭和60.8 ●学生食堂竣工
- 1987 昭和62.2 ●校舎(2号館)竣工
- 2001 平成13.2 ●ボディリペア実習場(4号館)竣工
- 2003 平成15.4 ■専攻科設置
- 2014 平成26.4 ●大学名称を北海道自動車短期大学より変更

■ 学科構成(2014年度)

■専攻科	入学定員
車体工学専攻(1年制)	25
■学 科	
自動車工業科第一部	150

■ 組 織(2014年5月1日現在)



※自動車工業科第二部および自動車工学専攻は2014年度より学生募集停止(廃止予定)



**単なる薬の専門家ではなく、
豊かな人間性を備えた
薬剤師を目指して**

現在、薬剤師は単なる「薬の専門家」という位置づけではなく、なりつつあります。薬剤師の今後の使命は、患者のQOLを向上させるために、適切な薬物治療を提供する「薬物療法の専門家」として活躍することです。また、最近の薬剤師には豊かな人間性が求められるようになりました。そこで本学は、他大学に先駆け、高度化した薬物療法に対応するとともに、地域医療、在宅医療において、知識や技能はもちろん、誰からも魅力的と言われる人間性を兼ね備えた薬剤師の育成に向け、綿密なカリキュラムを整えるなど、全学一丸とって取り組んでいます。

**手稲区前田キャンパスへの
移転でより充実した教育へ**

2015年4月に北海道科学大学がある札幌市手稲区の前田キャンパスに移転します。新キャンパスでは北海道科学大学の教育資源との連携を図ることで、より一層の充実した教育環境を提供できることとなります。

講義棟には講義室の他に学生食堂、コンビニエンスストア、学生生活をサポートする事務局（学生課・教務課）などが設置されます。研究棟には薬剤師が活躍する現場を再現した実習室（模擬薬局実習室、シミュレーター演習室、無菌室、TDM室など）や、実験動物室、中央機器室、学生実験実習室、教員実験研究室が配置されます。また、図書館分室・学習室、薬学教育センターなどを配置し、卒業研究棟の研究・学習を行う学生が日常的に利用することができる施設になっています。



サテライトキャンパス(2012年4月開設)

なお本学の移転後も、自然環境に恵まれた小樽市の桂岡キャンパスには、薬用植物園、図書館および臨床講義棟などを存続させ、大学院や卒業研究学生等が利用できるようにする予定です。

**これからのニーズに
即応した連携施設**

今後の医療全体の動向として、超高齢化社会による「在宅医療」が重要な鍵となります。従来の外来調剤中心の保険薬局の業務にとどまらず、薬剤師が在宅医療分野などの新たな業務を担っていくことになるでしょう。北海道薬科大学では時代のニーズに即応するため、2012年4月に「北海道薬科大学附属薬局」を開設しました。介護サービス付き高齢者向け賃貸マンションの1階にあり、保険薬局の機能を持ったうえで、施設の在宅医療に関わり、学生に在宅医療のプロセスを見ることができるといった重要な場となっています。さらに、附属薬局のそばに「サテライトキャンパス」を開設。薬剤師認定制度認証機構から「生涯研修・認定制度認証機関」の認証を受けている北海道薬科大学にとって、生涯学習機関として活用されています。

**薬剤師の育成に焦点を絞った
6年一貫カリキュラムを展開**

北海道薬科大学の開学は1974年。今日まで6,100人に及ぶ薬剤師を輩出してきました。卒業生の多くは、北海道をはじめとする全国各地で活躍しており、わが国の医療の発展に大きく貢献しています。医療人に共通して求められる資質は、社会的な広い視野のほか、倫理観、コミュニケーション能力となっています。とりわけ薬剤師には科学的・論理的思考が不可欠と言えるでしょう。そこで本学は、6年一貫カリキュラムを編成。これにより、医療系科目の充実、現場に即した実務実習、演習による復習が可能になっています。こうした独自の教育が行えるのは、本学が薬科に焦点を絞った単科大学であるからにほかなりません。その強みを生かし、本学は真に医療現場から求められる薬剤師の育成という明確な視点で教育に取り組んでいます。



北海道薬科大学附属薬局(2012年4月開設)

**充実した教育環境で
育成される薬剤師**

1974年の開学以来、6,373名の卒業生を送り出し、内6,154名が薬剤師国家試験に合格し(合格率96.6%)、薬剤師として巣立っています。学んだ知識を着実に



自らの知識とするため、1年次から「演習」を開講。さらに6年次の「総合演習」では、国家試験合格に向けた総復習と苦手科目の克服といった、万全のサポートを展開しています。

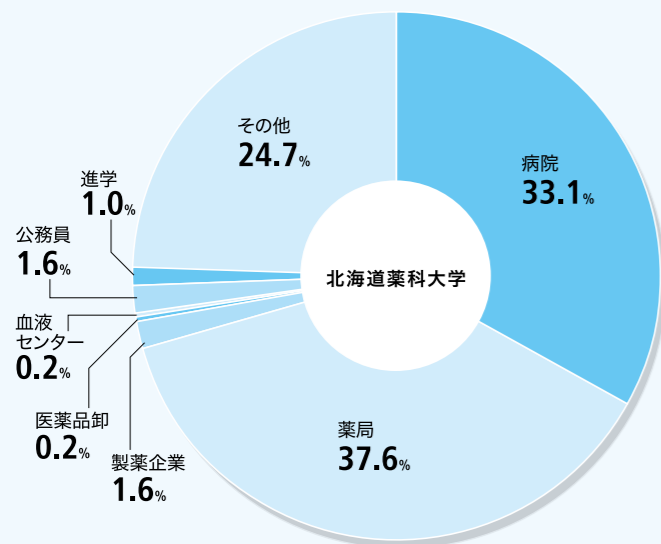
就職面についても、病院や薬局を中心に毎年多数の求人数を獲得。その背景には、地域医療、チーム医療の担い手として、各医療機関や医薬品業界からの本学の学生への期待が込められています。一方、大学院の博士課程・修士課程では、より高度な薬学の基礎研究、臨床研究を行い、広く医療現場や医療行政、さらには医療産業全般に貢献可能な研究者、指導者の育成に



も努めています。

今後も北海道薬科大学は、建学の精神に基づいた確かな教育理念と、万全の学習環境により、優秀な薬剤師として社会に貢献できる人材の育成に邁進していきます。

就職進学実績 (過去3年間)



卒業生の主な就職先

北海道大学病院、旭川医科大学病院、札幌医科大学附属病院、聖マリアンナ医科大学病院、国立病院機構北海道東北ブロック、静岡県立静岡がんセンター、市立札幌病院、市立小樽病院、砂川市立病院、手稲溪仁会病院、中村記念病院、JR札幌病院、北海道厚生農業協同組合連合会、徳洲会グループ、禎心会病院、北海道勤労者医療協会、愛全病院、王子総合病院、北海道薬科大学附属薬局、ツルハ、サンドラッグ、サッポロドラッグストア、ココカラファインヘルスケア、アインファーマシーズ、ファーマホールディング、北日本調剤、メイプル、中央調剤、パルス薬局、アイセイ薬局、ナカジマ薬局、クリオネ、総合メディカル、北海道、静岡県、岡崎市、協和発酵キリン、Meiji Seika ファルマ、田辺三菱製薬



北海道薬科大学主催、就職相談会

HISTORY

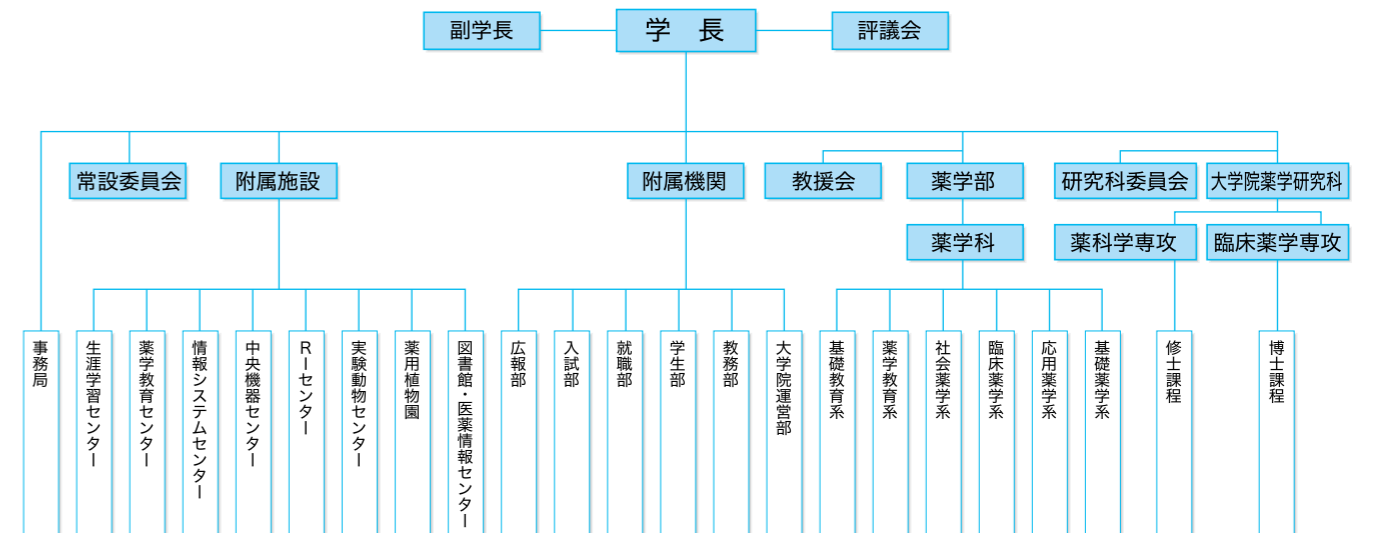
- 1974 昭和49.5 ●開学 ●薬学部 ●薬学科設置 ●生物薬学科設置
- 1975 昭和50.11 ●実験動物センター、RIセンター開設
- 1976 昭和51.4 ●薬用植物園開園
- 1978 昭和53.4 ●大学院/薬学研究科 ●生物薬学専攻修士課程設置
- 1980 昭和55.4 ●大学院/薬学研究科 ●生物薬学専攻博士後期課程設置
- 1987 昭和62.6 ●中国瀋陽薬学院(現:瀋陽薬科大学)と学術交流協定調印
- 1993 平成5.4 ●図書館棟竣工
- 2000 平成12.4 ●大学院/薬学研究科 ●臨床薬学専攻修士課程設置
- 2003 平成15.7 ●中国黒竜江中医薬大学と学術交流協定調印 ●中国黒竜江省第二病院と学術交流協定調印
- 2004 平成16.4 ●既設2学科を医療薬学科に再編
- 2005 平成17.3 ●教育理念・教育目標制定 ●米国南ネバダ大学と学術交流協定調印
- 2006 平成17.5 ●薬学科(6年制)を設置 ●臨床講義棟竣工
- 2007 平成18.4 ●旭川医科大学と学術交流協定調印 ●医療法人財団夕張希望の杜と学術交流協定調印 ●小樽商科大学と包括連携協定調印
- 2008 平成19.8 ●天使大学と包括連携協定調印
- 2009 平成19.10 ●医療法人母恋天使病院と学術交流協定調印
- 2010 平成20.11 ●大学院/薬学研究科 ●薬科学専攻修士課程設置 ●手稲溪仁会病院と学術交流協定調印 ●(株)アインファーマシーズと連携協定調印 ●北海道家庭医療センターと連携協定調印 ●(株)ファーマホールディングと連携協定調印
- 2011 平成21.3 ●新食堂竣工
- 2012 平成22.2 ●北海道薬科大学サテライトキャンパス開設 ●大学院/薬学研究科 ●臨床薬学専攻博士課程設置 ●北海道薬科大学附属薬局開設 ●(株)マザースと連携協定調印 ●北海道札幌手稲高等学校と連携教育協定調印

大学院研究科・学部学科構成 (2014年度)

■大学院				入学定員
薬学研究科	博士課程	臨床薬学専攻		3
■薬学部				入学定員
薬学科				210



組織 (2014年5月1日現在)



生徒一人ひとりの 希望に沿った指導を展開する 3学科5コースを設定

「人間性豊かな心を持って社会に貢献し、未来を切り拓く人材の育成」を教育理念として、1956年に創立されました。開校から2001年まで、本学は工業系4学科、普通科から構成された北海道工業高等学校として歩んできました。2001年以後は系列大学への接続教育の拡充を図るため、校名を「北海道尚志学園高等学校」と変更し、新たなスタートを切っています。現在は、生徒の学力や将来の進路に応じて、3学科5コースを設置しています。

普通科には「特別進学コース」・「北薬大コース」・「進学コース」があり、「特別進学コース」では国公立大学・難関私立大学への現役合格を目指し、7時間授業や放課後の個別指導により高度な教育を行っています。「北薬大コース」では、系列の北海道薬科大学と連携した独自のカリキュラムにより、未来の薬剤師を目指します。「進学コース」では、系列の北海道科学大学や国

公立大学、有名私大への進学を目指し、2年生以降は、それぞれの進学希望に合わせて、実力を着実に養うためのクラス編成を行っています。電子機械科では、コンピュータによる視覚情報処理、ロボット制御を学ぶなど最新のテクノロジーを追究しており、系列の北海道科学大学へ多くの生徒が進学しています。自動車科では、自動車整備の基礎技術を修得し、在校中に3級自動車整備士の国家資格取得を目指します。系列に北海道科学大学短期大学部があり、より高度な自動車工学の習得も可能となっています。系列校へは、系列校推薦制度を利用して受験することも可能で、余裕を持って受験勉強に取り組める点が大きなメリットとなっています。

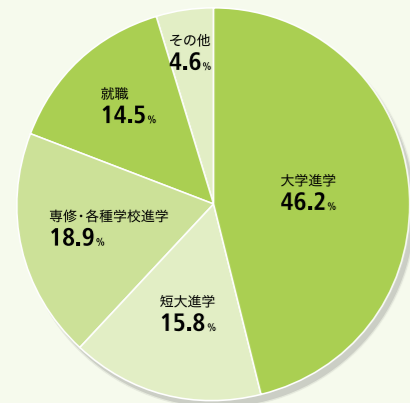
学校行事やクラブ活動を 充実し、有意義な学生生活で 建学の精神を実践

本学の校訓は「至誠一貫」。これは、「何事も真心を持って貫きましょう」という願いを込めた言葉にほかなりません。この

校訓の示す通り、本校では勉強はもちろん、学校行事やクラブ活動にも全力で取り組んでいます。代表的なものは支笏湖への強行遠足、学校祭、体育大会、修学旅行など、四季折々の学校行事を通して、教員、友人との交流を深め、社会性を養うとともに、人間関係の大切さを学んでいます。特にクラブ活動には熱心に取り組んでおり、十分な時間を割いて指導を行うとともに、総合運動場や総合体育館のほか、演習室や総合実習室の整備といった、施設・設備を充実させて、ソフト・ハード両面から強力なバックアップを行っています。その成果として、体育系、文化系ともに多くの輝かしい実績を挙げ、個性を尊重する教育方針を証明しています。

このように本校では、日頃の授業はもちろん、進路指導、学校行事、クラブ活動と、生徒各自が有意義な日々を過ごせるように、毎日の学校生活を充実することで、「尚志」、すなわち「志すところ高し、志しを尊ぶ」といった建学の精神を追求しています。

就職進学実績(過去3年間)



卒業生の主な進学先と就職先

■主な進学先

北海道科学大学、北海道薬科大学、北海道科学大学短期大学部、北海道大学、北海道教育大学、小樽商科大学、室蘭工業大学、北見工業大学、札幌市立大学、東北大学、山形大学、鹿屋体育大学、秋田県立大学、北海学園大学、北海商科大学、北星学園大学、札幌大学、札幌国際大学、札幌学院大学、北海道医療大学、北翔大学、道都大学、北海道情報大学、北海道文教大学、千歳科学技術大学、函館大学、日本大学、中央大学、東京工科大学、国土館大学、東海大学、拓殖大学、駒澤大学、専修大学、國學院大学、埼玉工業大学、北里大学、日本体育大学、桐蔭横浜大学、近畿大学、中京大学、長浜バイオ大学、慶応義塾大学、朝日大学、光塩学園女子短期大学、北翔大学短期大学部、北星学園大学短期大学、北海道武蔵女子短期大学、札幌国際大学短期大学部、青森中央短期大学、青山学院女子短期大学

■主な就職先

石上車輛、デンソーエレクトロニクス、北日本石油、トヨタ自動車北海道、北海道旅客鉄道、ヤマト運輸、MAC、DNP北海道、JOMOネット北海道、セーフティステップ、興商、ミドリ、サセキ北海道、ガイア、札幌集給食事業協同組合、月寒製作所、カヤノ電機製作所、岡目屋パン、キタ、北海道警察、自衛隊(一般曹候補・候補生)、キャタピラー・ジャパン、ジャスコ、日野自動車、巴商会、トヨタ自動車、ジーテクト、サカイ引越センター、JOMOネット東京、ワタキューセイモア、㈱エルム観光、山田産業㈱、㈱樋口、北ガスフレアスト南㈱、㈱ニチイ学館、ホームマック㈱、北海道マツダ販売㈱、㈱どんぐり、㈱モロオ、ニューライフ警備保障㈱、東進共同水産㈱、㈱道新総合印刷、㈱キューソーエルプラン東日本、㈱ヤマダ電機、㈱北洋建設、㈱安住ボーリング

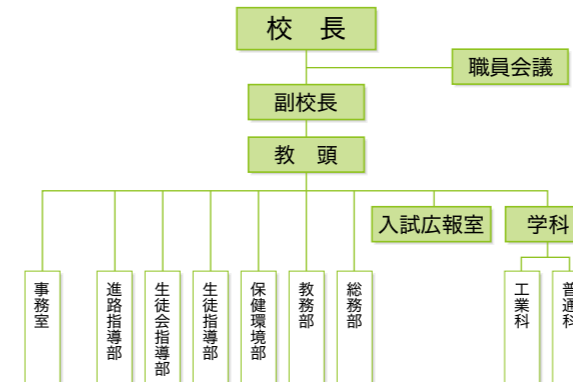
HISTORY

- 1956 昭和31.4 ●開校 ■自動車科定時制課程設置
昭和31.12 ■全日制課程自動車科1学級編成
- 1957 昭和32.4 ■工業経営科設置
- 1964 昭和39.2 ●自動車科 運輸大臣指定の一種自動車整備士養成施設となる
- 1967 昭和42.12 ●新校舎(鉄筋5階建)竣工
- 1971 昭和46.4 ●工業経営科に電子計算機コースを開設、女子生徒入学
- 1973 昭和48.4 ■普通科設置
- 1978 昭和53.11 ●総合体育館竣工
- 1987 昭和62.4 ■生産機械科設置 ■情報技術科設置 ●総合実習館竣工
- 1989 昭和62.8 ●真駒内駒岡、総合運動場竣工
- 1991 平成3.4 ●生産機械科を電子機械科に、工業経営科を経営システム科に科名変更
- 1995 平成7.8 ●第77回全国高等学校野球選手権大会(甲子園)出場
平成7.9 ●家庭科実習棟竣工
- 2001 平成13.4 ●北海道工業高等学校から北海道尚志学園高等学校に校名変更、普通科(8間口)、電子機械科(2間口)、自動車科(2間口)に改組
- 2003 平成15.3 ●経営システム科、情報技術科廃止
- 2004 平成16.9 ●野球屋内練習場竣工
- 2010 平成22.6 ●中の島運動場竣工
- 2012 平成24.4 ●普通科に北薬大コース開設、文理総合コースを進学コースに名称変更

■学科構成(2014年度)

■全日制課程(入学定員440人)		入学定員
普通科	特別進学コース	300
	北薬大コース	
	進学コース	
工業科	電子機械科	60
	自動車科	80

■組織(2014年5月1日現在)



公安委員会の指定を受けた 北海道初の自動車教習所 として、施設・設備を充実

北海道自動車学校の創立は1924年と古く、開校当時はコースが中の島にあったことから、「中の島自動車学校」と愛称され、親しまれてきました。1953年には北海道初の公安委員会指定を受けており、まさにドライバー育成機関のパイオニアとしてモータリゼーションを牽引してきたといっても過言ではありません。以来、自動車の普及、運転免許証を取得する人の増加とともに、本校は施設・設備の充実に努めてきました。代表的なものが最新鋭の四輪ドライビングシミュレーターと二輪ライディングシミュレーターです。これらのシステムは「住宅街の子どもの飛び出し」や「先行タクシーの客乗せ急停止」、「信号なし横断歩道の通行者」といった危険な場面をCGで映像化。さまざまなシチュエーションをリアルに体験することができる構成になっており、運転技能の向上はもちろん、「いざ」という時の対処能力を養えるようになっています。



各シミュレーターのほかに、学科教習用の視聴覚機器、インターネットや携帯電話を利用して自己学習を可能にした、「eラーニングシステム」や「教習の予約、配車用コンピュータシステム」を導入。教習の予約については、入学時に教習生が受け取るIDカードをカードリーダーに入れ、画面上をワンタッチ操作するだけ。予約状況を確認したい時は、道内初のインフォメーションディスプレイシステムにより、接続したディスプレイ画面で1週間程

度の予約空状況が一目で確認できるようになっており、手順の簡略化と業務の効率化を図っています。

さまざまなカリキュラム、 講習会を開催し、地域社会や 経済の活性化に貢献

本校では、さまざまな交通事情、道路状況に対応できるドライバーの育成に努めています。例えば、高速道路の大幅な延伸や通行需要の高まりから、「高速道路安全走行教習」をいち早く開講。高速道路を走行する際の安全教習を行っています。また、公安委員会の委託により、「初心運転者講習」や「高齢者運転講習」を実施。また、「安全運転講習会」や「二輪ツーリング教室」、さらに「ペーパードライバー講習」などを通し、交通安全教育の啓発にも務めています。

本校がこれまでに送り出してきた卒業生は40万人に達しており、交通安全と交通モラル、マナーの徹底に努めるドライバーを輩出することで、地域社会や経済の活性化に貢献し続けています。



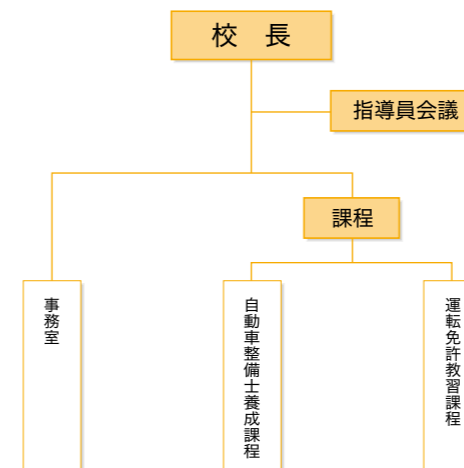
HISTORY

- 1924 大正13.8 ●開校 自動車運転技能教授所
- 1931 昭和6.3 ●学校名を北海道協立自動車学校に改称
- 1936 昭和11.6 ●各種学校認可
- 1943 昭和18.6 ●学校名を北海道自動車学校に改称
- 1951 昭和26.10 ●準学校法人に組織変更
- 1952 昭和27.4 ■高等科設置
- 1953 昭和28.1 ●設置者を学校法人自動車学園（現：学校法人北海道科学大学）に変更
- 1961 昭和36.1 ●道路交通法に基づく指定自動車教習所となる
- 1967 昭和42.1 ●高等科を整備専攻科に改称

■課程構成(2014年度)

		入学定員
運転免許教習課程	普通自動車	921
	大型特殊自動車	
	大型二輪車	
	普通二輪車	
	普通二輪車(限定)	
自動車整備士養成課程	整備専攻科	25

■組織(2014年5月1日現在)



各校の学生・生徒、教職員データ

■学生・生徒(2014年5月1日現在)

■北海道科学大学

学部	学科	在籍学生数(人)	
工学部 (創生工学部)※1	機械工学科(機械システム工学科)※1	406	
	情報工学科(情報フロンティア工学科)※1	416	
	電気電子工学科(電気デジタルシステム工学科)※1	327	
	建築学科	103	
	都市環境学科	65	
計	1,317		
保健医療学部 (医療工学部)※1	看護学科	106	
	理学療法学科	50	
	義肢装具学科	142	
	臨床工学科(医療福祉工学科)※1	318	
	診療放射線学科	63	
計	679		
未来デザイン学部	メディアデザイン学科	360	
	人間社会学科	156	
計	516		
空間創造学部※2	建築学科	298	
	都市環境学科	123	
	計	421	
学部計	2,933		
大学院	専攻	修士課程	博士課程
工学研究科	機械システム工学専攻	3	0
	電気電子工学専攻	4	-
	情報工学専攻	6	-
	医療工学専攻	17	-
	建築工学専攻	8	-
	土木工学専攻	0	-
	電気工学専攻	-	3
	応用電子工学専攻	-	1
	建設工学専攻	-	0
	計	38	4
大学院計	42		
大学計	2,975		

※1 カッコ内は2013年度以前入学生の学部学科名称
 ※2 空間創造学部 建築学科・都市環境学科は2014年度より学生募集停止(廃止予定)

■北海道科学大学短期大学部

学科	在籍学生数(人)
自動車工業科第一部	270
自動車工業科第二部※	25
計	295
専攻科	在籍学生数(人)
自動車工学専攻※	0
車体工学専攻	11
計	11
大学計	306

※自動車工業科第二部および自動車工学専攻は2014年度より学生募集停止(廃止予定)

■北海道薬科大学

学部	学科	在籍学生数(人)	
薬学部	薬学科	1,316	
大学院	専攻	修士課程	博士課程
薬学研究科	薬科学専攻	0	-
	臨床薬学専攻	-	5
	計	0	5
大学院計	5		
大学計	1,321		

■北海道尚志学園高等学校

学科	在籍生徒数(人)
普通科	424
電子機械科	159
自動車科	229
学校計	812

■北海道自動車学校

課程	入校者数(人)
運転免許教習課程	2,009
自動車整備士養成課程	0
学校計	2,009

※北海道自動車学校入校者数は、平成25年度年間入校者数

■教職員等(2014年5月1日現在)

	役員・専任教職員																合計
	役員	教育係						事務系			収益事業	計	嘱託職員	臨時職員	収益事業パート	非常勤教員	
		教授(諭)	准教授	講師	助教	助手	計	技術員	職員	契約							
法人本部	3	-	-	-	-	-	-	24	4	28	7	38	-	1	2	-	41
北海道科学大学	-	88	44	14	17	6	169	-	53	20	73	-	242	-	-	-	148
北海道科学大学短期大学部	-	8	5	1	2	0	16	2	9	3	12	-	30	-	-	-	8
北海道薬科大学	-	30	19	14	5	0	68	-	33	4	37	-	105	-	-	-	22
北海道尚志学園高等学校	-	49	-	-	-	-	49	2	7	3	10	-	61	-	-	-	29
北海道自動車学校	-	12	-	-	-	-	12	-	1	-	1	-	13	27	14	-	54
計	3	187	68	29	24	6	314	4	127	34	161	7	489	27	15	2	207

■校地・校舎面積(2014年5月1日現在)

	校地			校舎		
	校舎・その他の敷地	屋外運動場敷地	合計	校舎・その他	体育施設	合計
法人本部	4,123	-	4,123	4,531	-	4,531
北海道科学大学	130,580	115,566	246,146	57,679	4,877	62,556
北海道科学大学短期大学部	39,595	4,595	44,190	21,752	2,527	24,279
北海道薬科大学	102,900	38,963	141,863	24,828	1,761	26,589
北海道尚志学園高等学校	4,965	92,994	97,959	15,625	3,672	19,297
北海道自動車学校	16,259	-	16,259	3,134	-	3,134
計	298,422	252,118	550,540	127,549	12,837	140,386

各校の所在地、連絡先

北海道科学大学

〒006-8585
 札幌市手稲区前田7条15丁目4番1号
 TEL: 011-681-2161 FAX: 011-681-3622
 HP: www.hus.ac.jp

北海道科学大学短期大学部

〒062-0922
 札幌市豊平区中の島2条6丁目2番1号
 TEL: 011-821-0175 FAX: 011-821-7300
 HP: www.jc.hus.ac.jp

北海道薬科大学

〒047-0264
 小樽市桂岡町7番1号
 TEL: 0134-62-5111 FAX: 0134-62-5161
 HP: www.hokuyakudai.ac.jp

北海道薬科大学附属薬局

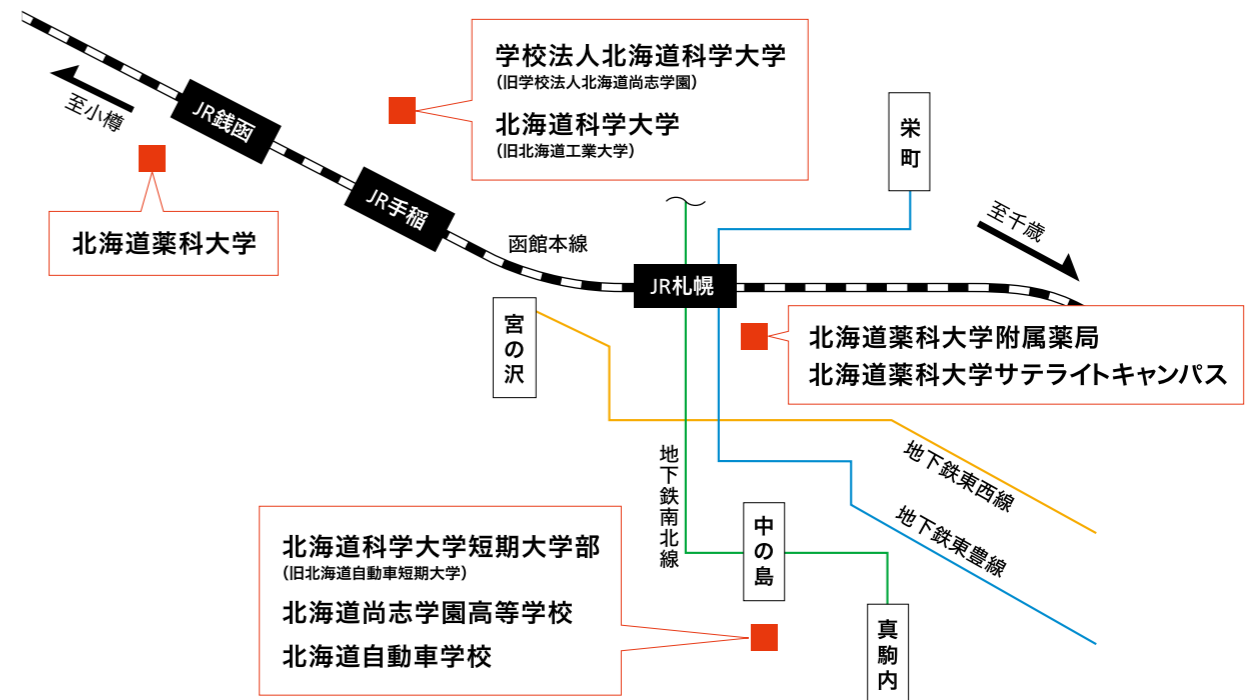
〒060-0033
 札幌市中央区北3条東1丁目1-1(JR札幌病院隣接)
 TEL: 011-242-9383 FAX: 011-242-9384
 HP: www.hokuyakudai.ac.jp/fuzokuyakkyoku

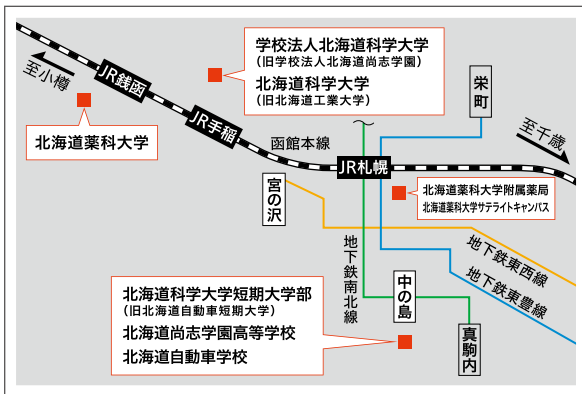
北海道尚志学園高等学校

〒062-0922
 札幌市豊平区中の島2条6丁目2番3号
 TEL: 011-821-0173 FAX: 011-823-6370
 HP: www.hsg.ed.jp

北海道自動車学校

〒062-0922
 札幌市豊平区中の島2条6丁目2番4号
 TEL: 011-821-0172 FAX: 011-842-2755
 HP: www.douji.ac.jp





- JR手稲駅から**
- バス 約9分(北口、JRバス)
 - JRバス 科学大学線【循環手48】①
 - JRバス 明日風線【手85】②
 - タクシー 約5分
 - 徒歩 約25分
- 地下鉄宮の沢駅から**
- バス 約25分(JRバス)
 - JRバス 新発寒線【宮79・宮79-1】③
- 札幌近郊からJRでのアクセス**
- 近郊駅からJR手稲駅までの所要時間(快速)
- 札幌駅～ 約10分(44本/日)
 - 小樽駅～ 約22分(22本/日)
 - 新千歳空港駅～ 約50分(26本/日)

学校法人北海道科学大学 (旧学校法人北海道尚志学園)

〒006-8585 北海道札幌市手稲区前田7条15丁目4-1
 TEL: 011-681-2161 FAX: 011-688-7639
 HP: www.ed.hus.ac.jp

+Professional

ヒューマンティ、コミュニケーション能力、問題発見・解決能力、マネジメント能力といった基盤能力を基に、専門性を身につけている人材が社会に必要です。単なる「Professional」だけではなく、後付けの「Professional+」でもない、基盤能力を前提とする「+Professional」を育成すること。すべての設置校に共通する、わたしたちのスローガンです。

- 北海道科学大学
 北海道科学大学短期大学部
 北海道薬科大学
 北海道薬科大学附属薬局
 北海道尚志学園高等学校
 北海道自動車学校